

# 地域医療連携室だより

～ 第 1 号 ～

大阪市立十三市民病院

## 地域医療連携室 室長 挨拶

副院長 兼 地域医療連携室 室長

倉井 修



平成 27 年 4 月 1 日から地域医療連携室長に就任いたしました。

これまでは、消化器内科医師として地域の先生方から紹介して頂いた患者への対応や地域医療機関訪問を行ってまいりましたが、今後は更に大阪市立十三市民病院として地域医療連携の充実に努力する所存でありますので宜しく願い申し上げます。当院は「市民に愛され、地域に貢献する病院」を理念とし、「特色ある医療ならびに地域に根ざした医療を通じて、地域から信頼される病院であり続ける」ことを目指しております。

本年 4 月より 2 名の循環器内科専門医が内科スタッフとして赴任し、当院の課題であった循環器疾患患者に対する十分な対応が可能になりました。また、肝胆膵外科専門の外科医、糖尿病内科医および呼吸器内科医も新たに 1 名ずつ赴任し、当院の医療機能は確実にレベルアップいたしました。このような中で地域医療連携室も新たに始動し、①病診連携 ②ベットコントロール ③退院支援 ④広報活動 の 4 つの役割を担っております。

病診連携に関しましては、日中の全科対応だけでなく、平日の 17 時～20 時 30 分及び土曜日の 9 時～12 時 30 分は、内科・小児科患者の時間外診察・入院依頼に対応しております。土曜日、日曜日の内科の 2 次救急対応を含めて、地域の先生方に是非利用して頂ければと考えております。また、MRI および CT、上下部消化管内視鏡、腹部エコー、骨塩定量などの検査予約や糖尿病教室、肝臓病教室への参加予約も電話・FAX によるスムーズな受け入れを行っています。

本年 4 月から地域医療連携室に看護師を配置し、地域の先生方からの当日診察・入院依頼にスピーディーな対応を行うようになりました。退院支援に関しては、看護師 1 名と医療ソーシャルワーカー 2 名が、急性期治療後の患者に対する回復期リハビリテーション病院などの亜急性期病院や長期療養型病院および施設への転院や自宅復帰への支援を推進しております。

本年度からは地域の先生方を対象として「地域医療連携室だより」を発行することとなりました。本刊が第 1 号となりますが、まずは当院における最新の医療機能などを掲載することといたしました。今後は、地域の先生方のご意見を伺いながら継続していく所存でございますので、ご要望やご質問を地域医療連携室までお寄せ頂ければ幸いです。

「地域の先生方、地域の住民の皆様とコミュニケーションを密にとり、信頼される病院」を目指して、地域医療連携室スタッフ一同、今後一層の努力してまいりますので、何卒よろしく願い申し上げます。

## 循環器内科が充実しました

当院では、これまで循環器内科医の常勤医がおらず、循環器疾患の入院患者の受け入れが困難でしたが、4月から大阪市立総合医療センターより2名の循環器専門医が内科所属として赴任し、循環器疾患患者を積極的に診療することになりました。

内科副部長の小松龍士医師は、平成6年に大阪市立大学を卒業後、大学病院などで

研修し、その後、大阪市立大学医学部大学院に進学し、循環器病理、特に冠動脈ステント留置後の病理の研究をしてきました。平成13年より大阪市立総合医療センター循環器内科に赴任し、冠動脈疾患、閉塞性動脈硬化症に対するカテーテル治療や、肺塞栓症、静脈血栓症に対する診断・治療を専門におこない、中心的立場として臨床や若手指導をおこなってきました。また、平成18年より慶應義塾大学放射線診断科に国内留学をし、冠動脈CT、心臓MRIの非侵襲的画像診断の指導を受けました。その後は、総合医療センターにおいて、冠動脈CT、心臓MRIの立ち上げに尽力しました。当院では本年秋頃には80列CTを導入する予定であり、総合医療センターでの2000件以上の冠動脈CT撮影の経験を活かすだけでなく、これまでにない新しい撮影・解析方法を用いることにより、さらに質の高い画像・診断を提供できると思われま

す。内科副部長の中川英一郎医師は、平成7年に九州大学を卒業し、初期研修終了後に国立循環器病センターに赴任しました。同院で循環器全般、不整脈専門医としてのトレーニングをうけ、さらに大阪市立大学循環器内科不整脈部門で研鑽を積んでおります。平成18年からは、大阪市立総合医療センターにおいて、不整脈に対するカテーテルアブレーション治療、さらにペースメーカー留置をはじめとする心疾患のデバイス治療の立ち上げをし、それらを積極的にこなしてきました。平成22年には米国 Good Samaritan Hospital に臨床留学をし、心房細動等に対するカテーテルアブレーション治療の指導をうけております。帰国後は、同院にて不整脈診療の中心的立場として、臨床や若手の指導をおこなってきました。

今後当院では、冠動脈疾患や下肢閉塞性動脈硬化症、静脈血栓症に対する診断・治療だけでなく、徐脈性・頻脈性不整脈患者の積極的な受け入れを行い、不整脈疾患の診断・薬物的治療、さらにはペースメーカー留置術やカテーテルアブレーション治療もおこなっていく予定です。また、最近の高齢化社会で急増している心不全患者に関しても、積極的に診察させていただきます。

これから循環器疾患が疑われ、お困りの際には気楽にご相談いただければと思います。よろしくお願いいたします。

内科副部長 小松 龍士



内科副部長 中川 英一郎



下肢動脈形成術前



下肢動脈形成術後



術後 8か月

## 肝・胆・膵外科が充実しました

外科担当部長 塚本 忠司

2015年4月より大阪市立総合医療センター肝胆膵外科から当院外科に異動し、外科担当部長に就任しました。大阪市立大学を卒業後13年間同大学病院に所属し、心臓外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、小児外科を修練したのち、後半6年間は大学助手として肝胆膵外科研究班に所属し肝臓、胆道、膵臓の外科疾患の診療、研究、教育に参画する傍ら、同大学病院での肝移植開始にむけて努力しておりました。



その後、高津病院に就職しましたが、同病院は開設100年を超える歴史ある病院で、血管外科で著名な先生が在職されておられましたので、消化器外科、一般外科を担当するかたわら血管外科の勉強をさせていただき、とくに下肢静脈瘤の治療には多くの症例に携わりました。

また2001年介護保険制度が導入されるにあたり、大阪府介護支援専門員に登録されました。

その後2002年より6年間淀川キリスト教病院に所属し、消化器外科全般に携わる中、消化管手術への鏡視下手術の積極的な導入、肝切除術や膵切除術の症例に尽力しておりました。このころより、今では一般的となりました腹腔鏡下肝切除術も開始しました。一方で、痔疾患も多く診療させていただき、切らずに治す内痔核硬化療法(ALTA療法)にも携わりました。

2008年に大阪市立総合医療センター肝胆膵外科部長に就任。私が日本肝胆膵外科学会高度技能指導医に認定されることで、同センターも日本肝胆膵外科学会高度技能修練施設(A)に認定されました。これより7年間、多くの肝臓、胆道、膵臓の悪性疾患を対象とした手術を中心に手掛けてきました。おかげさまで肝切除症例数および膵切除症例数は年々増加し、2008年入職時の年間症例数が肝切除術63例、膵切除術28例であったものが最近では肝切除術110例前後、膵切除術50数例に達しています。入職当時より日本内視鏡外科学会技術認定医を取得しており、肝胆膵手術症例における腹腔鏡下手術の適応拡大にも専念しました。腹腔鏡下肝切除術は開腹肝切除術にくらべてその切開創の違いは、他の腹腔鏡下手術に比較にならないほど大きなもので、患者様への負担の軽減は相当のものです。他の鏡視下手術と同様、術中出血量の低減、術後在院日数の低減が有意なものとなっています。その症例数は年々増加し、今では肝切除術症例の約70%前後を腹腔鏡下に行い、日本を代表する腹腔鏡下肝切除を行う一施設となっています。

このたび十三市民病院外科に異動となりましたが、これまでの経験を生かし、十三市民病院においても開腹術はもとより腹腔鏡下手術も含めて肝胆膵の手術を行い地域医療に貢献できればと存じますので、よろしくお願い申し上げます。



開腹肝切除術の手術創



腹腔鏡下肝切除術の手術創

## 地域医療連携室に看護師を配置しました

平成 27 年 4 月より地域医療連携室課長代理に就任いたしました。  
今まで地域医療連携室は地域医療機関からの紹介に対応する業務に医療職が入っていなかったことから、患者様の受け入れに時間がかかることがありました。

今回、看護師が就任したことで患者様の病状をいち早く判断し、スピーディーに受診していただき、そして病棟との連携をとり入院への支援をスムーズに行ってまいります。

地域医療機関の先生方とのつながりを大切に考え、地域にやさしい医療を推進することを目標に活動してまいります。

地域医療連携室 課長代理  
看護師長 園田 恭子



## MRI 機種更新しました

地域医療の先生方にはいつも検査のオーダーを頂き有り難うございます。この 2 月～3 月は、MRI 入れ替えて検査お受けできず、ご不便おかけし申し訳ありませんでした。

さて 4 月からいよいよ、最新 MRI（フィリップス社製 Ingenia、磁場強度 1.5 テスラ）が稼働を開始しています。

最新撮像技術が満載され、すべての撮像領域において、従来の MRI とは次元の違う、高画質が得られるシステムとなっており、皆様の期待を裏切らないものと確信いたしております。

特に、当院の古い機械では苦手であった腹部領域においては、体動の補正や呼吸に同期させた撮像法の進化、撮像の高速化による、検査時に息を止めなければ成らない時間が短縮されることなどにより、大幅に画質が改善されています。造影剤を使用しない、血管撮像の技術も大きく進化しており、脳や頸部領域だけでなく、腹部であれば腎動脈、また下肢動脈などでも、かなりの精度の高い検査ができるようになっております。旧 MRI でもこだわって撮像してきた、各種の関節領域もすべての部位で今まで以上の高画質が得られるように、各関節に専用のコイルを導入しています。撮像時の装置の騒音も、従来の MRI と比べると相当に小さくなり、加えてマグネットの前後径は短くなって、検査時に感じられていた強い圧迫感や恐怖感もかなり軽減され、患者様にはより快適に検査を受けていただけるようになっております。旧 MRI からご愛顧頂いております先生方には従来通りに、まだ当院に検査を依頼された事の無い先生方にも、この機会に是非一度検査を依頼いただき、画像をご覧頂ければ幸いです。何とぞよろしく願い申し上げます。



地域医療連携室

Tel:06-6150-8067

Fax:06-6150-8686

編集

大阪市立十三市民病院

地域医療連携室

〒532-0034

大阪市淀川区野中北 2-12-27

代表電話：06-6150-8000